

～実習にご協力いただく区市町村及び拠点機関の皆様へ～
 令和4年度東京都相談支援従事者初任者研修「実習」受け入れガイド

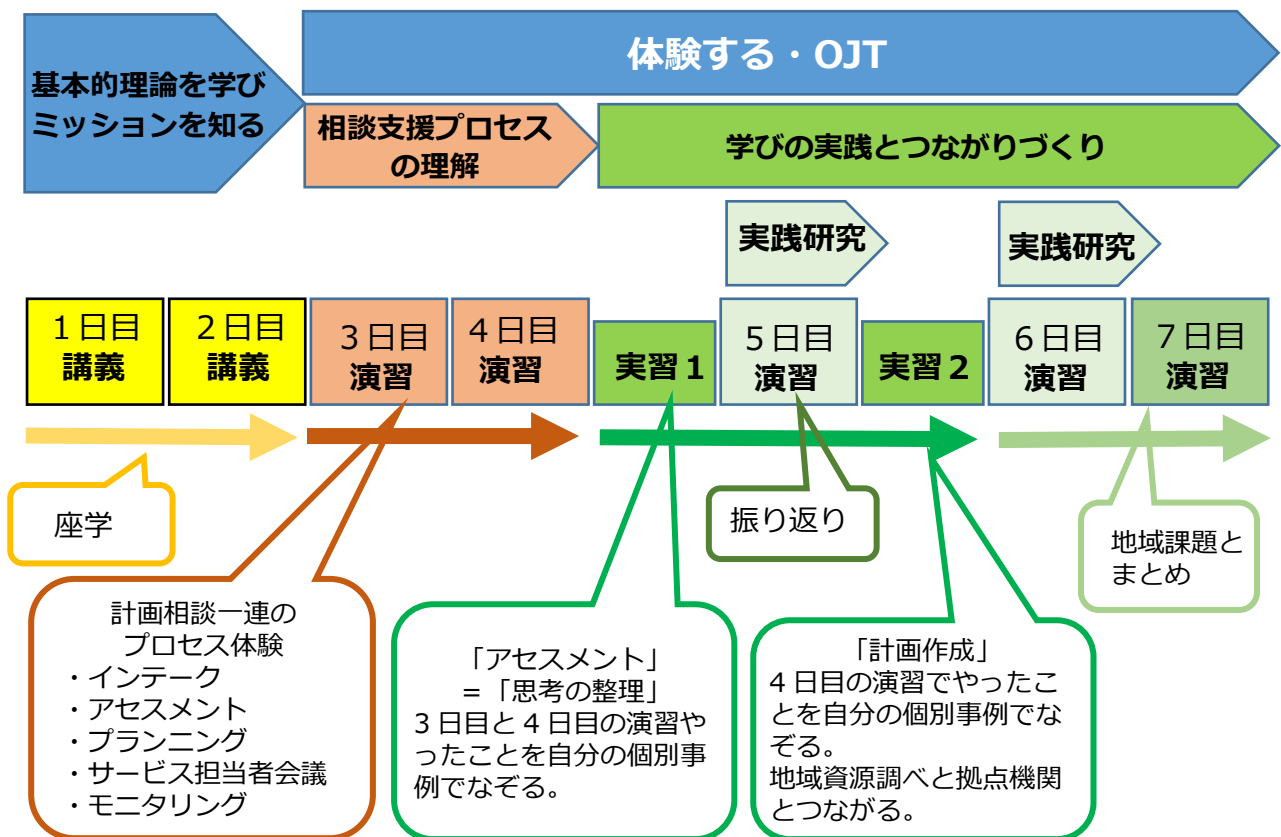
はじめに

令和2年度に、相談支援従事者研修のカリキュラムが新しくなり、研修日数が増え、研修の合間に地域に戻っての実習が加わりました。初任者研修の実習では、相談支援（ケアマネジメント）の基礎技術に関することと地域資源に関する情報収集について取り組むよう国の要綱で示されています。

区市町村及び拠点機関の皆様にご協力いただきたい内容をガイドとしてまとめましたので、ご確認ください。

なお、本ガイドの作成にあたりましては、令和4年度東京都相談支援従事者研修検討会のご協力をいただいております。

1 初任者研修の概要



- ・受講者数は、約500名です。
- ・講義は、オンライン配信での実施です。
- ・演習は、A～Fの6日程に分かれて Microsoft Teams を使用した Web 会議での実施となります。

2 実習の目的

- 自分が関わりのある事例で実際にアセスメント～計画作成に取り組むことで、ケアマネジメントの一連のプロセスを着実に実施できるようになる。
- 相談支援専門員として従事する地域の社会資源を調べ、実践で活用できるようにする。
- 地域にある拠点機関とのつながりをつくる。

3 実習の流れとご対応いただく内容について

区市町村に対応いただくのは(2)「実習2」②、拠点機関の皆様に対応いただくのは、(2)「実習2」③④になります。各日程の研修5日目終了後から6日目までの間が実習2の対応期間になります。(5頁の研修スケジュール参照)

各実習課題の詳細については、実習ガイダンス資料をご参照ください。

(1) 実習1 (実習課題1～5) 受講者が自分で取り組みます

受講者は、研修3日目と4日目で使用したツール(基本情報グラフィック・ストレングスマップ・ニーズ整理表・5 Pics(ピクチャーズ))を使い、自分の事例で思考の整理(ご本人を中心としたアセスメント情報の整理)に取り組みます。

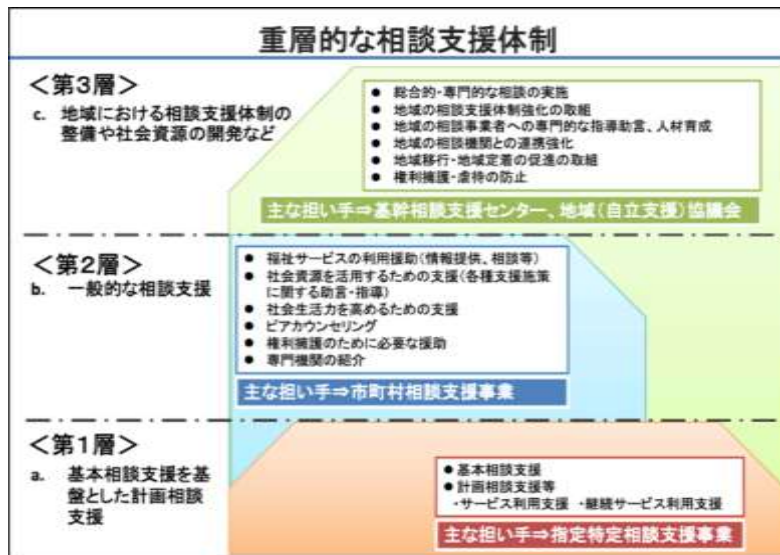
(2) 実習2 (実習課題6～10) 一部区市町村と拠点機関の協力を得て行います

①受講者は、実習1で取り組んだ個別の事例について、サービス等利用計画案を作成します。

②区市町村から地域の相談支援体制について説明を受けます。

【区市町村から受講者にご説明いただきたいこと】

初任者研修修了者が、地域の相談支援体制を理解して活動を開始できるよう、以下の図の示す「重層的な相談支援体制」と照らし管内の相談支援関係機関の機能分担について説明してください。



相談支援に係る関係機関の機能分担については、「相談支援の質の向上に向けた検討会」における議論のとりまとめ(平成28年7月19日)において「地域において実情が異なるため画一的に示すことはできないが、一般的には三層の構造に区分されるものと考えられる」とされています。

③拠点機関に、地域での役割や相談支援専門員として大事にしていること等についてインタビューをします。

②③について聞き取ったことをインタビューシート(3頁)にまとめます。

④拠点機関に、実習ナビシート（4頁）に沿って（1）と（2）①で作成したアセスメントと計画案を見てもらいます。

4 実習対応の準備と評価について

(1) 区市町村と拠点機関の皆様には、東京都で実施する初任者研修の目的や内容を把握した上で、実習対応をしていただくため6頁からの「別冊 初任者研修ガイド」で事前学習をお願いします。

(2) 区市町村の窓口職員と拠点機関で受講者情報を共有し、地域の実情に合わせた実習の受け入れについて打合せを行ってください。受講者ごとに対応する拠点機関の担当者（以下「実習対応者」という。）を決めてください。

(3) 受講者は、研修5日目の受講後、別紙3の区市町村窓口に連絡をします。「実習2」②についての説明の機会と、「実習2」③④に対応する拠点機関を案内し、アポイントを取るよう伝えてください。

(4) 全ての実習対応後、区市町村と拠点機関で振り返りを行ってください。

※地域の実情に合わせて、実習の実施方法や順序を決定してください。昨年度は、実習対応時に区市町村の職員に同席していただくことで理解が深まったという声がありました。

※新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、受講者にはWeb会議での実習を推奨しています。

※実習で知りえた事例の情報は外部に漏らさない等、情報の取扱いには十分ご注意ください。特に、個人情報扱う「ニーズ整理表」、「5 Pics」、「サービス等利用計画案」は閲覧のみとし、使用後は確実に受講者に返却してください。

5 拠点機関での実習対応の進め方例

○まずは、日頃の業務や研修受講について、労いからスタートしてください。

- ・受講者が地域の拠点機関と今後もつながっていけるようなことばかけをお願いします。

○インタビューシートの質問に沿って、インタビューに回答してください。

- ・日頃の活動を通して感じている地域の強みや、ご自身が大切に感じていることを共有しつつ、受講者と関係性をつくっていただけたらと思います。

② 拠点機関へインタビュー（相談支援担当部署から紹介された機関の相談支援専門員に聞く）				
インタビューした日	令和4年 月 日	拠点機関名		対応してくれた人の名前
質問		回答		
相談支援専門員として、地域の強みと課題は何だと思えますか。 ※地域資源調べから自分で考えたことと比較しながら聞いてみましょう。				
地域で計画相談・障害児相談支援を行うにあたって大切にしていることは何ですか。				
自立支援協議会の部会の構成はどのようになっていますか。相談支援専門員が所属している部会はありますか。自立支援協議会で相談支援専門員の役割はどのようになっていますか。				
地域で不足している社会資源や課題の解決に向けて、相談支援専門員が思いを伝え、検討し、解決していく仕組みが、地域にありますか。それはどのようなものでしょうか。				

実習課題9 インタビューシートから抜粋

○受講者の個別事例で作成した「ニーズ整理表」、「5 Pics」、「サービス等利用計画案」を見せてもらい、実習ナビシートに沿って「相談支援専門員の土台となるもの（6頁）」の価値が押さえられているか確認してください。

【実習ナビシート】		【作成者】 受講決定番号： _____ 氏名 _____	
<p>■拠点機関の実習対応者にあなたの作成したニーズ整理表、5Pics、サービス等利用計画案を見ていただき、一緒にポイントを確認できるよう、拠点機関との実習前に①を記入しておいてください。</p>			
課題名	①自己点検欄：相談支援専門員の土台となるものの「価値」を押さええているかチェックしてください	②実習対応者と確認したポイントと気づき	
ニーズ整理表	本人中心 (押さえた 自信がない) 社会モデル (押さえた 自信がない) エンパワメント (押さえた 自信がない) 権利擁護 (押さえた 自信がない)		
5Pics	本人中心 (押さえた 自信がない) 社会モデル (押さえた 自信がない) エンパワメント (押さえた 自信がない) 権利擁護 (押さえた 自信がない)		
サービス等利用計画案	本人中心 (押さえた 自信がない) 社会モデル (押さえた 自信がない) エンパワメント (押さえた 自信がない) 権利擁護 (押さえた 自信がない)		
<p>■実習対応者からのメッセージとそれを受け取った自分の感想を記入してください。</p>			
実習対応者 事業所名 (_____) お名前 (_____) さんから 「 _____ 」というメッセージをい ただき、私は「 _____ 」と思いました。			
<div style="border: 2px solid black; display: inline-block; padding: 5px 20px;"> 実習課題 10 実習ナビシート </div>			

・計画案等の良し悪しを判断することが目的ではありません。実習をきっかけとして、受講者が実務についた後も拠点機関に相談ができる関係性をつくることを目的とした実習です。

・実習対応者が事例の回答や対応策を提示するのではなく、受講者の発言を促す問いかけをお願いします。

・気づきを促す問いかけの例

「ご本人の強みを教えてください。」

「ご本人は、○○という強い思いがあるようですが、どんなところで強く感じましたか。」

「ご本人の意思に沿った方法を決める時にポイントとなった言葉はどんなことでしたか。」

「本人の思いに近づけるために地域にある社会資源をどのように活用しようと思いましたか。」

「サービス等利用計画は、本人の意見を確認しながら一緒に作成できましたか。」

○最後まで労いをもって終了してください。残りの研修も頑張ってもらいたい、同じ地域の相談支援専門員の仲間が増えることが嬉しい等のメッセージを伝えていただけたらと思います。